

## 日吉台地下壕保存の会

## 会報

## 第42号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

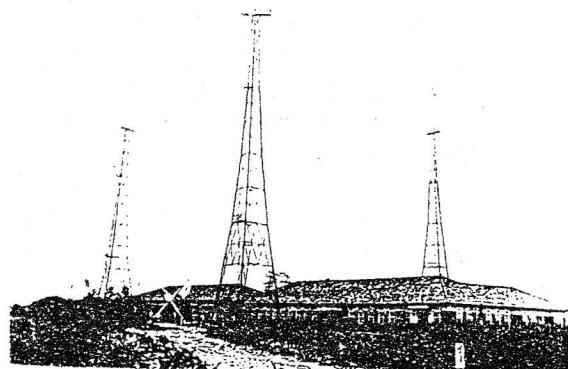
(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



蟹ヶ谷通信隊地下壕出入口（上）



蟹ヶ谷通信隊兵舎とアンテナの鉄塔（右上）



蟹ヶ谷通信隊の地下発電室（右下）

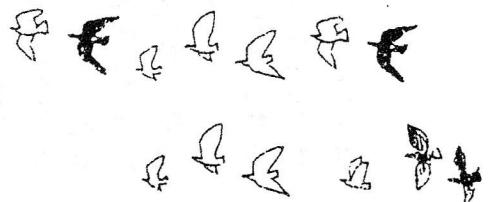
目 次	ページ
保存運動の現状と将来への展望	2
日吉台地下壕保存の会第九回	
1997年度定期総会開催される	
総会関係資料	3 ~ 6
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話19	7
幹事会報告	7 - 8
平和のための戦争展	8

1997年6月8日（日）午前10時

蟹ヶ谷通信隊地下壕見学会

蟹ヶ谷バス停集合

（東横線綱島駅～南武線武藏新城駅）



## 保存運動の現状と将来への展望

事務局長 寺田貞治

日吉台地下壕保存の会（略称）の創立以来満八年が過ぎ、希望を持ったり挫折を味わったりしながら、ともかく今日までやつてこられたのは、会員の皆様方の支えによるものと熱く御礼申し上げる次第です。

平成七年三月六日、文化財に関する史跡名勝天然記念物指定基準一部改正があり、史跡の対象とすべき時期が第二次世界大戦終結ごろまでとなり、対象とすべき遺跡に戦争遺跡も加えられ、横浜市や神奈川県の文化財課の対応も変わつてしまりました。

横浜市の文化財課では、昨年一月に土木専門の学者を伴い課長以下数名が地下壕の現状を見学されました。さらに今年の五月八日には、県と市の文化財課の方が合同で地下壕の見学にまいられました。

昨年文化庁から各自治体への「近現代の文化財の調査に関する通達」を受けて、各自治体が調査に乗り出しました。日吉台地下壕の見学もその一環として行なわれたのではないかと思いますが、文化庁の調査については数年はかかるようです。

また、非公式ではありますが、慶應義塾当局も「行政が責任を持つて史跡として保存してくれるのではれば検討する用意はある」という感触は得ております。その他、地権者である民家の方々の考えも「地下壕と同時に縁も含めて保存してほしい」というふうに聞いております。

今年の三月二一日に、港北区役所区政推進課企画調整係で企画された「港北区まちづくり交流会議」における「各地区からの提案」の中で、日吉地区では短期整備目標として「箕輪の森の公園整備」と共に、「日吉台地下壕の保存、入り口の確保」が提案されました。このように私たち保存の会を取り巻く状況はよくなつてきております。しかし文化庁の調査もあと数年はかかるといわれていますし、不景気で行政も税収不足となり、どこまで戦跡の保存に財源が振り向かれるか、楽観はできません。日吉台地下壕が史跡として指定されるか否かが決まるまでには、まだまだ長い時間と、私たち一人一人の努力が求められます。

第九回定期総会も無事終わりましたが、その活動方針に沿いながら今後も息の長い活動を続けてまいりました。会員の皆様のなお一層のご協力と、活動へのご参加をお願い申し上げます。

## 日吉台地下壕

## 保存の会

## 第9回一九九七

## 年度定期総会

## 開催される

四月二六日一四時より標記の総会が慶大藤山記念館大会議室で開催された。

はじめに元連合艦隊司令部通信（暗号）担当の海軍少尉土方定彦氏の講演があった。ついで総会に移り、活動報告、会計報告、活動方針、会計予算等（各ページに掲載）が承認された。

当日予定されていた元海軍省人事局・主計兵曹長若林繁雄氏の講演は氏の都合で中止された。

寺田事務局長の「保存運動の現状と将来への展望」には、微かな望みを見出すと共に、今がスタートの感を抱く。今後ともよろしくお願ひしたい。

## 1996年度決算報告

(単位は円)

	1996年度予算	1996年度決算	備考
収入の部			
会費	260000	451500	275名納入
カンパ	0	1000	
事業益	0	183500	パンフ・パネル貸出・見学会費等
雑費	0	1596	利息
繰越金	460070	460070	
合計	720070	1097666	
支出の部			
会議費	80000	76019	各種会合費
事務費	40000	24435	事務用品費
印刷費	120000	17055	会報等
通信費	280000	240933	会報郵送代等
資料費	20000	0	書籍等等
謝礼	50000	27274	講演・調査等
交通費	100000	33600	交流会・調査等
予備費	30070	87495	賛同金等
合計	720070	506811	
差引残高	0	590855	

以上の通り報告します。

日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1997年4月26日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

## 1996活動報告

1996年は、戦争に関する新聞やテレビの報道が、非常に少なくなりましたが、世界の各地で紛争が起こっています。朝鮮半島の状況も気になるところです。また、国内では沖縄米軍基地の縮小や日米安保の再定義などが問題となっています。

私たち「日吉台地下壕保存の会」は、9月に『横浜川崎平和のための戦争展'96』を横浜市と横浜市教育委員会の後援を得て開催するとともに、5月の『'96平和のための戦争展inよこはま』や7月の『'96平和のための戦争展かながわ』などにも参加し、日本が再び戦争を起こしたり、戦争に巻き込まれたりしないように、世界の平和を願って活動してまいりました。また、地下壕をはじめ戦争のことが、前年に引き続き幾つかの中学校や高校の文化祭で取り上げられ関心を呼んでいます。慶應高校でも日吉周辺の古老や戦争体験者の聞き取り調査をして、文化祭（日吉祭）で発表し話題を呼びました。これらの様子は、朝日新聞や神奈川新聞などマスコミでも報道されました。

現在、「保存の会」は、個人会員534名、団体会員12団体で運営しております。運営委員会4回、幹事会6回開催し、会報は5回発行しました。地下壕見学会は20回におよび、約500名の人々を案内しました。

1996年度の活動で特筆すべきことは、日吉台地下壕が史跡として保存される可能性が強まってきたことです。一昨年3月の「史跡名勝天然記念物一部改正」をうけて、文化庁から地方自治体の文化財課に対し近現代遺跡の調査をするよう通達を出しました。これを受けて神奈川県及び横浜市の文化財課が調査を始めました。私達「保存の会」も県や市の文化財課と何回か話し合いを持ち、互いに情報を交換し、その都度、日吉台地下壕の保存を強く要望してきました。県と市は協力して調査を進めており、両者とも『日吉台地下壕は重要な遺跡』と評価し、すでに資料を添えて文化庁には、その旨伝えてあることです。

また、地下壕周辺の地主の方々の『地下壕の保存』についての理解も深まり、私たちの『地下壕保存運動』をめぐる状況は非常に良くなってまいりました。しかし、県や市の近現代遺跡の調査には、数年を要するとのことで、私たちの運動は、まだまだ長い時間がかかります。私たちは、市や県の動きを注意深く見守りながら、さらに粘り強く活動を続けていく必要があります。

以上

## 1997年度活動方針

昨年度は、日吉台地下壕保存の展望が、やや具体的に見え始めてきました。しかし、史跡として指定されるか否かが決まるまでには、保存をめぐる状況は良くなっているとはいえ、私達一人一人の努力が求められます。また不景気が続き、国も県や市も深刻な税収不足や歳出削減で、文化財関係ことに戦跡の保存にどれだけの財源が振り向けられるか、状況の進展についての楽観は許されません。

私たちは、絶えず横浜市や神奈川県並びに文化庁、慶應義塾及び地域住民に、日吉台地下壕の保存を訴えると共に、連絡を取り合い、一刻も早く保存が決まるよう活動を推進していかなければなりません。また県内、国内の文化財関係者や戦争遺跡に関わる市民団体とも連絡を取り合いながら、力を合わせて保存運動を盛り上げていく必要があります。

そのため、私たちは下記の運動を進めます。

- 横浜市や神奈川県、慶應義塾、地域の人々と日吉台地下壕の保存についての話し合いを深め、史跡として保存されるように関係当局に働きかけていく。
  - 文化庁に『日吉台地下壕の保存についての要請書』を提出し、史跡としての保存を訴える。
  - 学習会・見学会・講習会・シンポジウム・平和のための戦争展などを開催し、日吉台地下壕・戦争と平和・戦争遺跡の保存などについて知り知らせる活動を行ない、日吉台地下壕の保存の必要性をアピールし、世論を喚起する。
  - 横浜市や神奈川県の文化財課への働きかけを続け、保存運動をさらに具体化させていくこと、また地下壕に要する費用および将来考えられる資料館建設の資金の一部として寄付金を募ること、さらに日吉台地下壕関係ならびに戦時中の資料・遺品の散逸を防ぐための手立てを行なうことなど検討していく。
  - 『戦争遺跡保存ネットワーク』のような戦跡の保存をめざす全国の市民団体と積極的に交流し、ともに戦争遺跡の保存運動を盛り上げていく。また全国の関係諸団体との交流をすすめ、戦跡や戦時中の資料、展示施設などの情報交換を行なう。
  - 日吉台地下壕に関する調査・研究をさらに進め、史跡としての意義や価値の評価を高めるように努力する。
- 以上のような活動を通して、日吉台地下壕の整備・保存並びに資料館建設の実現にむけて努力していきます。会員の皆様のなお一層のご協力と、活動へのご参加をお願い致します。

以上

## 1997年度予算

(単位は円)

収入の部			支出の部		
会 費	275000	275人×1000円	会議費	80000	各種会合費
カンパ	0		事務費	30000	事務用品等
事業益	0		印刷費	150000	会報等
雑収益	0		通信費	350000	会報郵送費等
繰越金	590855		資料費	50000	書籍等
			謝 礼	50000	講演、調査等
			交通費	100000	交流会、調査等
			予備費	55855	賛同金等
合 計	865855		合 計	865855	

[補足説明] 収入の会費収入は、1996年度の会費納入者が約275人  
なので、1000円×275人=275000円とした。

## 1997年度日吉台地下壕保存の会運営委員・会計監査 (アイエオ順)

会長	鮫島 重俊	白鶴 邦子
副会長	薄井 芳夫	谷藤 基夫
	鈴木 順二	遠山 考治
	田辺 和男	都倉 武之
	東郷 秀光	中沢 正子
事務局長	寺田 貞治	林 ちづ
	壱岐 尚子	茂呂 秀宏
	大西 章	天野 喬子
	岡上 そう	森山 高行
	亀岡 敏子	秋本 謙三
	喜田 美登里	永戸 多喜雄
	酒井 啓	佐藤 林平
	佐相 康雄	田辺 昇
会計監査		
顧問		



連載

日吉台地下壕  
当時の関係者の  
思い出話 20

日吉の日々 11

元海軍艦政本部・中尉の石  
原氏に伺います。

石原 光氏の話  
(ききて: 寺田貞治)

広島高等師範を昭和一八年  
九月に卒業し、一〇月一日に  
兵科として海軍に入った。土  
浦海兵团で訓練を受けたあと、  
須崎航空隊に配属され少尉と  
なった。藤沢航空隊に移り予  
科練の教育に当つた。予科練  
には中学二年から志願して入  
つてきました。

次に新長後にあるレーダー  
の学校に移つた。コレヒドー  
ルで米軍から奪い取つたレー  
ダーと同じものを作つた。し  
かし、米国ではレーダーを妨

害する研究が進んでいたため  
役に立たなかつた。米国はレ  
ーダーで手に取るようにな日本  
の地上を見ていた。

昭和二〇年六月末に艦政本  
部に移り、新橋の第一ホテル  
に居住した。士官クラスが居  
住していた。艦政本部は田村  
町のNHKの近くにある日産  
ビルにあつた。約千人の人が  
いた。技術将校が多く、兵学  
校出の士官や技術士官、主計  
士官などもいた。艦政本部は  
艦船を作り、供給する所で、  
仕事は艦船に関する事、経  
理に関する事をやつていて。  
人事局・航空本部などと共に  
海軍省に属していた。

私は下士官・兵の一二人と  
一緒に総務にて、総務関係  
の仕事をしていた。車の出し  
入れ、倉庫の管理、警備など  
である。また、甲板士官とし  
て下士官・兵の管理をしてい  
た。直接の上司は少佐であつ  
た。

た。

日吉に艦政本部が来ること  
になつたのは、爆撃が激しく  
なつたためである。引越しが  
決つて以来、二、三度様子を  
見にきた。地下壕の部屋割り  
や引越しの準備計画なども私  
の仕事だつた。

昭和二〇年八月はじめに見  
にきた時、慶應普通部から南  
に続く丘の下の地下壕はコン  
クリートで固められ、空気抜  
き用の縦穴が二つ見えた。地  
下壕の中は天井に裸電球があ  
るだけの殺風景なもので、こ  
んな所で仕事ができるかと考  
え込んでしまつた。兵や下士  
官を泊めて貰う農家も探さね  
ばならなかつた。

日吉には二〇年八月一五日  
に移転の予定であつた。その  
日終戦となつたのである。  
(生協ニュース教職員版第五  
一号より抜粋転載)

松井重久氏報生口第一回  
五月七日午後六時半、  
日吉地区センター

一、三月一八日平和のための  
戦争展inよこはま'97実行委員  
会に出席

二、同二九日横浜市従旁組に  
よる見学会一二名参加

三、同三〇日横浜平和資料館  
(仮称)建設計画(赤レンガ  
倉庫利用)打合せ会に出席

四、四月二日かながわ憲法フ  
ォーラム実行委員会に出席

五、同三日川崎横浜平和のた  
めの戦争展'97第一回実行委員  
会開催

六、同九日横浜市平和資料館  
(仮称)建設計画要請の打合  
せ会に出席

七、同一〇日会報四一号発行、  
発送

八、同一二日平和のための戦  
争展かながわ'97実行委員会に  
出席

九、同一五日横浜市平和資料

館（仮称）建設計画要請の打合せ会に出席

一〇、同一五日平和のための戦争展inよこはま97実行委員会に出席

一一、同一九日慶大通信教育学生による見学会二三名参加

一二、同二〇日川崎横浜平和のための戦争展97第二回実行委員会開催

一三、同二三日「赤れんが倉庫に平和博物館を」市に要望書提出・記者会見

一四、同二五日かながわ憲法フォーラム実行委員会に出席

一五、同二六日第九回定期総会開催二八名参加

一六、同二七日ボーリスカウト小学四年生による見学会二三名参加

一七、五月三日かながわ憲法フォーラムに出席

一八、同六日「赤れんが倉庫に平和博物館を」事務局会に出席

出席

一九、同六日平和のための戦争展inよこはま97実行委員会に出席

二〇、同七日第一回幹事会

二一、同八日県と市の文化財課から見学に来られた

二二、同九日平和のための戦争展inよこはま97プレイベン

ト高島伸欣氏講演会に出席、於県民センター

二三、同一〇〇一一日平和のための戦争展inよこはま97に

出展於県民センター

二四、同一三日「赤れんが倉庫を平和博物館に」事務局会に出席

二五、同二八日川崎横浜平和のための戦争展97プレイベン

ト蟹ヶ谷・日吉台地下壕見学会二六名参加

二六、二一日川崎横浜平和のための戦争展97第三回実行委員会開催

二七、同二四日ハム通信仲間

員会開催

二八、同六日「赤れんが倉庫

による見学会二五名参加

第五回川崎・横浜

平和のための  
戦争展 97

主催：97平和のための戦争展実行委員会

連絡先：亀岡 045-561-2758

● 14日（土）  
若者によるシンポジウム  
△午後2時～4時

● 15日（日）  
《朗読》今野 鶴三氏  
『きけ、わだつみの声』  
△午前11時～12時

《朗読劇》大原穂子氏（俳優）  
川村千鶴氏（俳優）ほか  
△午後1時～2時半

《シンポジウム》  
『戦争遺跡の保存を考える』  
十菱駿武氏、菊池実氏  
渡辺賛二氏、新井揆博氏  
寺田貞治氏  
△午後2時半～4時半

会場所 川崎市平和館 東横線 元住吉

### 実施内容

● 14日（土）午前10時から  
15日（日）午後5時まで

### ＜展示＞

登戸研究所・蟹ヶ谷地下壕  
・日吉台地下壕のパネル、  
模型・書物等

### ☆特別展示

特攻隊員上原良司氏の遺品を展示。

### ＜ビデオ上映＞

○陸軍諜報基地登戸研究所  
○海軍蟹ヶ谷通信隊地下壕  
○連合艦隊司令部など日吉台地下壕

